

様式 1

教科用図書第 3 採択地区調査委員会

(家 庭) 小委員会委員長

坂 本 景 子

印

調査研究	1 審議経過の概要 (1) 審議の対象となった発行者名及び数 ・東京書籍、開隆堂の 2 者 (2) 調査結果の手順 ・第 1 回調査委員会（6 月 2 6 日）で 2 者の教科書を配布し、調査の観点や手順を協議した。 ・第 2 回調査委員会（7 月 1 5 日、1 6 日）に、各自の調査研究を基に内容別に協議し、様式 1 について整理するとともに、全体を通して各者の特徴をまとめ、様式 2、様式 3 を作成した。 (3) 調査研究のための観点、項目 ・取扱内容については、学習指導要領の目標、内容等に基づいて取り上げられているか、また知識・技能の習得、活用、探求に対応できる内容などがどのように取り扱われているかという視点で調査し整理した。 ・内容の程度・排列・分量等については、児童の発達の段階に応じて、系統的・発展的に組織され、領域等ごと、全体としてどのようなになっているかという視点で調査し整理した。 ・使用上の配慮等については、児童の学習意欲を高める工夫、主体的に学習に取り組める工夫、目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているかという視点で調査し整理した。
全体を通じての特徴	2 審議経過の概要 (1) 東京書籍については、全ての学習項目を問題解決の流れに沿った課題発見、課題解決、活用の 3 ステップで展開することで学習内容が確実に身に付くようにするという特色があり、優れている。 開隆堂については、基礎・基本がしっかり身に付くように題材を細かく構成、排列することで学習を積み上げ、応用させるとともに、生活に生かしていく力が身に付くようにしている特色があり、優れている。 (2) このほか、東京書籍と開隆堂については、今日的な課題として防災教育に関する特集や言語力を育てる工夫がされているなどの話題も出されていた。

家庭科の目標等について	
【教科の目標】 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	
【学年・領域等の目標など】 [第 5 学年及び第 6 学年] (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。 (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。 (3) 自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	
【参考】 ○ 家庭科、技術・家庭科については、その課題を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から、その内容の改善を図る。 その際、他教科等との連携を図り、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。 (ア) 家庭科については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容の改善を図る。 ○ 社会の変化に対応し、次のような改善を図る。 (ア) 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。 心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。 ○ 体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見出し解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。 ○ 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践と結び付きに留意して内容の改善を図る。 ○ 標準授業時数 第 5 学年－ 6 0 単位時間 第 6 学年－ 5 5 単位時間	

様式 3

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	2・東書	第5, 6学年	家庭 531	新編 新しい家庭 5・6
取扱内容 各学年の目標、学習指導要領の総則及び各教科の内容等	○ 各学年の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「A家庭生活と家族」については、第5学年において団らんのための仕事をしたり、家庭生活を工夫したりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、家族の一員として家庭や地域でできることを考えたりする活動を通して、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活の大切さに気付く。 ・「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年において「カラフルコンビネーションサラダ」やご飯とみそ汁をつくる活動や、第6学年において栄養のバランスのよい朝食のおかずをつくったり、家族が喜ぶ一食分の献立を考えたりする活動を通して、食生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・「C快適な衣服と住まい」については、第5学年において「小物入れ」や「ウォールポケット」を製作したり、掃除したりする活動や、第6学年において洗濯などの衣服の手入れをしたり、冬を快適に過ごす工夫を考えたりする活動を通して、衣生活や住生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・「D身近な消費生活と環境」については、第5学年においてノートの買い方を考える活動や、第5、6学年において、衣食住の生活と関連させた環境を大切にする工夫を考える活動を通して、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活の仕方についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「カラフルコンビネーションサラダ」「ウォールポケット」など、調理や製作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習題材や、「家族が喜ぶ食事をつくろう」「トートバックをつくろう」など、実生活に活用できる具体的な活動例が取り上げられている。			
内容の構成・分量等	○ 内容の構成・排列については、学習内容を14の大題材（42の小題材）で構成するとともに、「だんらんのための仕事」や「手ぬいで生活を楽しくする小物の製作」などの基礎的な学習をした後に、「家族が喜ぶ食事づくり」や「生活に役立つ布製品の製作」などの基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を取り扱い、2年間を通して系統的・発展的に学習することができる工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「A家庭生活と家族」は19ページ、「B日常の食事と調理の基礎」は42ページ、「C快適な衣服と住まい」は59ページ、「D身近な消費生活と環境」は11ページであり、総ページ数は130ページで、前回より約15パーセント増となっている。（B5版からAB版に変更）			
使用上の配慮等	○ 写真、挿絵、マーク、コラム欄などを効果的に配置することによって興味・関心を持たせたり、学習のめあてやワークシートを掲載し学習活動を促したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 生活経験の有無にかかわらず誰もが課題意識をもつことができる「Do!活動」を提示して問題解決的な学習を促したり、「自由研究」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 字体や配色を工夫するとともに、2年間の学習の見通しや振り返りに活用するため巻頭に「家庭科を学ぼう」「成長の記録」、巻末に「これからの私たち」を掲載したり、実習、実験における安全や衛生に留意しながら学習を進めるため「安全」マークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他				

様式 3

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	9・開隆堂	第5・6学年	家庭 532	小学校 わたしたちの家庭科5・6
取扱内容 各学年の目標、内容等	○ 各学年の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「A家庭生活と家族」については、第5学年において家族に協力して仕事をしたり、団らんを工夫したりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、家庭や地域で共に生きるために自分ができることを考えたりする活動を通して、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活の大切さに気付く。 ・「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年において「カラフルゆで野菜サラダ」やご飯とみそ汁をつくる活動や、第6学年において朝食に合うおかずをつくったり、栄養のバランスのよい一食分の献立を考えたりする活動を通して、食生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・「C快適な衣服と住まい」については、第5学年において「カード入れ」や「ランチョンマット」を製作したり、冬を快適に過ごす工夫を考えたりする活動や第6学年において掃除をしたり、洗濯などの衣服の手入れをしたりする活動を通して、衣生活や住生活にかかわる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・「D身近な消費生活と環境」については、第5学年において「買い物名人〇か条」を考える活動や、第5、6学年において、衣食住の生活と関連させた環境を大切に工夫を考える活動を通して、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活の仕方についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「カラフルゆで野菜サラダ」や「ランチョンマット」など、調理や製作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習題材や、「身近な食品でおかずをつくろう」「マイバックをつくろう」など、実生活に活用できる具体的な活動例が取り上げられている。			
内容の構成・排列等	○ 内容の構成・排列については、学習内容や17の大題材（42の小題材）で構成するとともに、「やってみよう家庭の仕事」や「手ぬいで楽しい小物の製作」などの基礎的な学習をした後に、「栄養のバランスのよい食事づくり」や「生活を楽しむ布製品の製作」など基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を取り扱い、系統的、発展的に学習することができる工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「A家庭生活と家族」は21ページ、「B日常の食事と調理の基礎」は38ページ、「C快適な衣服と住まい」は52ページ、「D身近な消費生活と環境」は4ページであり、総ページ数は114ページで、前回より約5パーセント増となっている。（B5版からAB版に変更）			
使用上の配慮等	○ 写真、挿絵、マーク、コラム欄などを効果的に配置することによって興味・関心をもたせたり、学習のめあてや課題の振り返りを枠組みで掲載し、学習の見通しを持ったりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 課題の投げかけで「考えよう」「話し合おう」「調べよう」「やってみよう」の提示により問題解決的な学習を促したり、「チャレンジコーナー」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ レイアウトや配色を工夫するとともに、2年間の学習の見通しや振り返りに活用するため巻頭に「家庭科の学習」、巻末に「成長した私たち」を掲載したり、実習、実験における安全や衛生に留意しながら学習を進めるため「安全」マークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他				